人間の喜び哀しみ、深い情愛…
人形浄瑠璃・文楽には、いつの世も変わらぬ人情の機微、
人間のドラマが描かれている
見るひとの心を打ち共感を集めてきた、その魅惑の世界へ…

文部省特選
教育映像祭 優秀作品賞
文化庁 優秀映画作品賞
毎日映画コンクール記録文化映画賞

カラー　34分
販売価格（消費税別）
16ミリ　245,000円
ＶＨＳ　12,000円

文楽（いざな）への誘い

企画・監修　日本芸術文化振興会
　　国立劇場
製作　桜映画社
出演　人形浄瑠璃文楽座
協力　財団法人　文楽協会

◎文楽を解く

映画評論家　登川直樹

日本の伝統芸能のなかでも文楽は、どこかとりすましたようで近づきがたいと、昔は私も思っていた。が、折に触れて文楽の舞台を眺めるうちに、あのとりすました人形の顔がドラマの展開につれて、実にゆたかに、時にははげしく時にはおだやかに、表情を変えるのを知って驚いた。顔というよりからだ全体の動きは、もちろん人形遣いの操るところだが、それが浄瑠璃の太夫の語りと三味線の太棹（ふとざお）のひびきと相俟（あいま）ってひとつの様式表現となっていることを納得した。

この映像作品は、それらのことを一瞬のうちに了解させてくれるところがいい。裸の文楽人形をさらすのは痛々しいが、それが衣裳を着けた人形のゆたかな表現の謎を説き明かす。人間国宝とたしかな職人芸の統一がここにある。舞台は「俊寛（しゅんかん）」と「曽根崎心中（そねざきしんじゅう）」の一部を見せるが、それらの『無念の思い』は観るものを圧倒する。

一瞬にして文楽の門をくぐることができる入門の書である。

演目　『平家女護島』鬼界ヶ島の段
　　『曽根崎心中』天満屋の段
　　天神森の段

主な出演者
竹本住大夫（義太夫節／人間国宝）
吉田玉男（人形遣い／人間国宝）
吉田簑助（人形遣い／人間国宝）
野沢錦弥（現・野沢錦糸）
ほか

●配給

文楽への誘い

解　説

○プロローグ／『平家女護島』鬼界ヶ島の段から

文楽は、昔は操り浄瑠璃芝居、あるいは人形浄瑠璃と呼ばれていた。語り物の音楽、義太夫節と人形により、人間の感情や心理を描く舞台芸術である。しかも人形は三人で操り、人形遣いも堂々と観客の前に姿を現すという、世界にも類のない演劇である。

『平家女護島』は「俊寛」の名で知られる人形浄瑠璃で、「平家物語」で有名な俊寛の悲劇を元にした、近松門左衛門の「時代物」の代表作である。

近松はこの作品で、俊寛という人物を強さと弱さを合わせ持つ、きわめて人間臭い英雄として描いた。

○竹本義太夫と近松門左衛門

語り物としての浄瑠璃と、三味線、操り人形が一つになり、人形浄瑠璃が誕生したのは、十六世紀の終わり頃であった。江戸時代に入って、浄瑠璃のなかでも最も人気を集めたのは、義太夫節で、その創始者は竹本義太夫である。この義太夫のために、優れた浄瑠璃を書いたのが近松門左衛門である。元禄十六年（1703年）、近松・義太夫のコンビにより、はじめての「世話物」の浄瑠璃『曽根崎心中』が上演され、大当たりをとった。

『曽根崎心中』は大阪の曽根崎天神の森で実際に起きた心中事件を元に、事件の二ヶ月後に上演された作品である。近松の描く世話物浄瑠璃は、時代物の世界とは全く異なり、元禄時代の大阪の町人の世界を扱った我が国最初の画期的な現代劇であった。

○太夫と三味線

義太夫節を語る太夫の語りは、単なる描写や説明ではない。そこに登場する人物の心を表現し、人情の機微を巧みに語り表すことが大切にされてきた。

三味線は太夫と協力し、時にはリードしながら、太棹三味線の深く豊かな音色で、人物の心の模様や情景などを表現する。文楽の魅力は、この太夫の語りと三味線、これに人形が加わり、この三つが一体化したところに生まれてくる。

近松の時代は、人形はまだ一人遣いであったが、江戸の中頃に一体の人形を三人で操るという、世界にも類のない様式が生まれてきた。文楽の舞台は手摺りと、舞台前方を沈めた船底のある独特の構造を持っている。

○舞台を支える人たち

華やかな文楽の舞台も、地味だが高度な技術を持つ、たくさんの裏方によって支えられている。

人形の首を作り、修理するのは人形細工師である。人形の鬘を作り、髪を結い上げる床山の仕事。膨大な衣裳、古裂の中から、出し物に合った衣裳を選び、作りあげる衣裳方。小道具は、人形の大きさに合わせ、どれも小ぶりに作られている。

衣裳が出来上がると、人形を遣う主遣いが、自分で人形の襟や襦袢、着物、帯などを縫い合わせ、着付けをする。これを人形拵えと呼んでいる。

○『曽根崎心中』天満屋の段・天神森の段から

近松の世話物の代表作『曽根崎心中』を鑑賞してみる。

舞台は曽根崎新地の天満屋で、平野屋の手代徳兵衛と天満屋の遊女お初が心中の覚悟を決める場面である。

やがて舞台は、太夫と三味線の掛け合いによる道行の場面（天神森の段）に変わり、近くの寺から聞こえてくる回向念仏を聞きながら、二人はあの世で一緒になろうと死出の旅へと向かうのである。浮き世のしがらみから、破滅へと追いたてられていく悲劇を、華麗な筆で描き上げた近松の浄瑠璃の世界。

いつの世も変わらぬ人間性への深い洞察力と、磨き込まれた名人たちの芸が、人形に命を吹き込み、文楽は今も我々の心を打つのである。

◆資料提供
早稲田大学演劇博物館
東京大学付属図書館
東京大学教養学部図書館
サントリー美術館
大東急記念文庫
大阪市立博物館

◆製作スタッフ
製作　村山和雄
脚本　原村政樹／村山正実
演出　村山正実
撮影　西山東男／山屋恵司／木村光男
撮影助手　藤江　潔／田中龍雄／今野聖輝
照明　本橋俊男／工藤　晃
タイトル　菁映社
編集　吉田栄子
ネガ整理　加納宗子
選曲　山崎　宏
録音　堀内戦治　アオイスタジオ
現像　ＩＭＡＧＩＣＡ
ナレーター　和田　篤

日本の古典演劇を観る

狂言鑑賞入門
棒縛・宗論をみる
カラー・33分
16ミリ 240,000円

世阿弥の能
ZEAMI
AND NOH THEATRE
カラー・49分　［英語版あり］
16ミリ 300,000円
ＶＨＳ　25,000円（個人一般価格）
50,000円（ライブラリー価格）

能
NOH DRAMA
カラー・30分　［英語版あり］
16ミリ 200,000円
ＶＨＳ　20,000円（個人一般価格）
40,000円（ライブラリー価格）

●製作　株式会社 桜映画社　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷４－２０－１　千駄ヶ谷ビル４階
TEL. 03-3478-6110（代）　FAX. 03-3478-5966